

C. そ の 他

I 発表論文抄録

1. HTLV-1抗体の確認方法と末梢リンパ球のHTLV-1抗原の検出

白地良一 葛岡勝悦
(臨床とウィルス, 16巻4号, 519-522)

成人T細胞白血病の病因ウィルス (HTLV-1) の感染状態を調べる方法の1つに血中の抗体を検査する方法があるが、抗体を保有するものが必ず同一血液中のリンパ球にウィルスを持っているのか不明であることから、HTLV-1キャリアーのリンパ球を培養して、ウィルスの存在を確認すべく実験した。

その結果、抗体陽性キャリアー8人中3人のリンパ球中に抗原を確認した。

2. 鮮魚に使用されたモナスカ色素の確認

高槻圭悟 鈴木滋 牛沢勇
庄子卓郎

(衛生化学, 34, 350-358, 1988)

A method for the confirmation of monascus pigment colored on the skin of fresh fishes was developed. A fish sample was extracted once with methanol at room temperature (30 min), and the extract of its condensate was checked for monascus pigment by visible absorption spectrometry, green fluorescence after reaction with ammonia and acetone, and thin layer chromatography. The extract which seemed to contain monascus pigment was further examined by liquid chromatography and gas chromatography-mass spectrometry (GC-MS). On the liquid chromatogram using two eluants successively, monascus pigment showed a characteristic peak to both visible and fluorescent detection, which was a clear indication of monascus pigment. Complex peaks appeared on the GC-MS total ion chromatogram, but the constituents of monascus pigment were identified by the mass spectra of these peaks, which could be used to confirm monascus pigment.

3. Statistical Approach towards Point Sources of Groundwater Pollution with Tetrachloroethylene: A Field Study

Kazuhiro Kidō, Yasumoto Magara, Tohru Furuichi
and Masayuki Ikeda

Tohoku J. Exp. Med., 1989, 157, 229-239

Tetrachloroethylene contamination of well water occurred in a primarily residential area. To search for point source(s) of tetrachloroethylene contamination, 91 water samples were collected on three separate occasions from 41 shallow wells scattered in the areas. Three methods of groundwater level analysis (limited to 30 wells), cluster analysis of water quality indicators and contour drawing of tetrachloroethylene concentrations were applied. The former two analyses showed that the pollution took place in aquifers of two terraces out of the three in the polluted area. The contour mapping demonstrated the presence of three spots of suspected pollution sources as the estimated points of highest tetrachloroethylene concentrations. The available information suggested the existence of a facility with possible use of tetrachloroethylene in the past.

4. 宮城県のスパイクタイヤによる道路粉じんの概況

氏 家 愛 子

(生活と環境, 34-3, 45~51, 1989)

宮城県の道路粉じんの実態をまとめ、それに及ぼす影響因子について解析を行った。

各市町村でのスパイクタイヤ装着率は、若干ながら減少傾向が認められるが、県平均装着率をみると、62年度の1~2月には約半数のドライバーが装着している状況であった。道路粉じんの状況もこれを反映して、過半数の38市町でスパイクタイヤ対策条例の暫定目標値を超過しており、なかでも、5市町で100 ton/km²/30日を超過していた。

また、道路粉じんに及ぼす影響因子について、この5ケ年の結果を数量化I類を用いて解析した結果、スパイクタイヤ装着車交通量の他に道路周辺の遮蔽度、月降水量など6因子が大きく影響することがわかった。

II 学 会 发 表

学 会 発 表

1. 緑地環境指標に関する適用性の検討
米山達彦 小室健一* 小葉松英行 (*現栗原保健所)
第14回北海道東北ブロック公害研究連絡会議 昭和63年10月21日 いわき市
第15回環境保全・公害防止研究発表会 平成元年1月12日 東京都
2. 感染症サーベイランス情報の精度管理方法
三浦英美 助野典義
第12回東北6県防疫研究会 昭和63年8月26日 盛岡市
3. 県内で発生した重症ウイルス病についての考察
秋山和夫 山本仁
第24回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和63年5月20日 仙台市
4. 宮城県内で分離されたレプトスピラの血清型の検討
秋山和夫 菱沼早樹子 白地良一 山本仁
第26回レプトスピラ・シンポジウム 平成元年3月26日 東京都
5. 小児科外来でみた乳児嘔吐下痢症(第1報 815例のウィルス学的検討)
永井小児科 永井幸夫
梅津幸司 山本仁 (宮城県保健環境センター)
第40回北日本小児科学会 昭和63年9月23日 山形市
6. ニジマスとラットの肝ミクロソームによるPCDDの代謝
鈴木滋 伊藤孝一 瀬戸輝武 福原守雄 (国立公衆衛生院)
日本食品衛生学会第55回学術講演会 昭和63年5月18日 横浜市
7. 食物繊維摂取量調査
勝倉由美 菊地秀明 菊池格
第24回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和63年5月20日 仙台市
8. 魚類中のトリブチルスズ化合物
菊池格 佐藤真貴子 菊地秀明 鈴木滋 高槻圭悟
第37回東北公衆衛生学会 昭和63年8月31日 山形市
9. アスコルビン酸の妨害を除去したたこ中の亜硝酸根分析
高槻圭悟 菊池格
第27回日本薬学会東北支部大会 昭和63年10月23日 郡山市
10. マーケットバスケット方式による日常食品からの汚染物摂取量調査(Ⅳ) 低沸点ハロゲン化炭化水素について
菊地秀明 鈴木滋 菊池格
第27回日本薬学会東北支部大会 昭和63年10月23日 郡山市
11. キャピラリーGLC-NPD, MS-SIM検出によるニトロソジメチルアミンの分析法
高槻圭悟 菊池格
日本食品衛生学会第56回学術講演会 昭和63年11月17~18日 静岡市
12. かび臭のいき値について
高橋紀世子 紺野光雄 瀬戸輝武* 菅原隆一**
(環境衛生部 *現宮城県薬務課 **現宮城県環境管理課)
第37回東北公衆衛生学会 8月31日 山形市
13. 宮城県における道路粉じんの状況及び道路粉じんに及ぼす影響因子について
氏家愛子
第29回大気汚染学会 昭和63年11月10日 仙台市
14. 冬期の道路近傍での汚染質の動向とSPM測定上の問題点
佐藤郁子 氏家愛子 仁平 明 加藤憲治
第29回大気汚染学会 昭和63年11月10日 仙台市

15. 仙台地域における浮遊粉じん高濃度と気象状況について
加藤 憲治 仁平 明 佐藤 郁子
第29回大気汚染学会 昭和63年11月10日 仙台市
16. オキシダント計の感度低下原因の一考察とデータ処理
仁平 明
第29回大気汚染学会 昭和63年11月9日 仙台市
17. 測定例におけるパネルの閾値について
佐藤 博明
第29回大気汚染学会 昭和63年11月11日 仙台市
18. 官能試験法の現場的な問題点について
佐藤 博明
第29回大気汚染学会 昭和63年11月9日 仙台市
19. 北国におけるオキシダント濃度変化の特徴について
仁平 明 加藤 憲治 佐藤 郁子 斎藤 達夫
第14回北海道東北ブロック公害研究連絡会議 昭和63年10月21日 福島県いわき市

Ⅲ 業 績 発 表 会

業 績 発 表 会

— プログラム —

座 長 白 石 広 行 (微生物部)

1. 感染症サーベイランスのデータ処理とグラフ表示
保健環境センター情報管理部 ○三浦 英美 助野 典義
2. 学校給食によるカンピロバクター食中毒の集団発生例
保健環境センター微生物部 ○村上 仁 佐久間 隆 高橋 成人 山本 仁

座 長 助 野 典 義 (情報管理部)

3. 腸炎ビブリオの増菌培地での発育抑制について
保健環境センター微生物部 ○菅野 信一 白地 良一 山本 仁
4. クラミジア・トラコマティス感染症の血清診断
保健環境センター微生物部 ○梅津 幸司 山本 仁 阿部皮膚科医院 阿部 政雄
5. 紅斑熱の血清診断法
保健環境センター微生物部 ○菱沼早樹子 秋山 和夫 御代田恭子 山本 仁

座 長 白 地 良 一 (微生物部)

6. ニジマスとラットの肝マイクロゾームによる 1. 3. 6. 8-TCDDの代謝
保健環境センター理化学部 ○鈴木 滋 伊藤 孝一 (水質部) 瀬戸 輝武 (現業務課)
福原 守雄 (国立公衆衛生院)
7. GC-MS・SIMによる残留サルファ剤の分析
保健環境センター理化学部 ○高槻 圭悟 菊池 格

座 長 高 槻 圭 悟 (理化学部)

8. 底質中の有機塩素化合物の分析法と土壌吸着について
保健環境センター環境衛生部 ○高橋紀世子 木戸 一博 紺野 光雄
9. 県内の水道水の水質 (第2報)
保健環境センター環境衛生部 ○平 富貴 千葉 規 紺野 光雄
10. 分離ばっ気方式単独処理浄化槽の処理機能に関する調査研究
保健環境センター環境衛生部 ○木戸 一博 紺野 光雄 栗田 芳隆 (環境衛生課)
横山 実 (環境衛生課) (社)宮城県環境衛生整備協会
浄化槽法定検査委員会
田手 潔 杉山 宏 渡辺太惣治

— 休 憩 ・ 昼 食 —

座 長 伊 藤 孝 一 (水 質 部)

11. 放射性降下物の県内分布
原子力センター ○加茂 泰彦 石川 陽一 阿部 勝彦 佐藤 健一
佐藤 信俊 船木 宏
12. Ge 検出器による環境ガンマ線の測定
原子力センター ○佐藤 健一 石川 陽一 加茂 泰彦 阿部 勝彦
阿部 武雄 佐藤 信俊 船木 宏

座 長 千 葉 規 (環境衛生部)

13. 新町川環境保全対策調査
塩釜保健所 ○野村 保 菅原 優子 栗野 健 高橋 正弘
森 泰明

14. 釜房ダム上流域の農業用水路降雨時水質調査
保健環境センター水質部 ○藤原 秀一 佐々木久雄 安斎 文雄 伏谷 均
伊藤 孝一 鈴木 弘一
15. ダム流域の土質特性と流入河川水質の関係について
保健環境センター水質部 ○安斎 文雄 伊藤 孝一 伏谷 均 佐々木久雄
藤原 秀一 鈴木 弘一
- 座長 小葉松 英行 (情報管理部)
16. 河川における濁水時の水質自動測定結果について
保健環境センター水質部 ○藤原 成明 吾妻 正道 清野 茂 小島 秀行
伊藤 孝一 鈴木 弘一
17. 塩釜・名取自排局における測定結果について
保健環境センター大気部 ○佐藤 郁子 加藤 憲治 仁平 明 斎藤 達夫
高梨 忠男
18. 北国におけるオキシダント濃度変化の特徴について
保健環境センター大気部 ○仁平 明 加藤 憲治 佐藤 郁子 斎藤 達夫
- 座長 鈴木 滋 (理化学部)
19. β 線吸収式SPM計の問題点
保健環境センター大気部 ○氏家 愛子 仁平 明 佐藤 郁子 大金 仁一
加藤 憲治 加藤 謙一 浦山 清 斎藤 達夫
高梨 忠男
20. 古川市内交差点周辺における窒素酸化物濃度分布実態調査
保健環境センター大気部 ○浦山 清 加藤 憲治 加藤 謙一 大金 仁一
氏家 愛子 斎藤 達夫 高梨 忠男
21. 快適環境施策に関する一考察
保健環境センター情報管理部 ○小葉松英行

IV 談 話 会

談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピック、現在の試験、研究内容等の話題を提供していただき討論していく会である。

原則として、毎月第3木曜日午後1時15分から所内会議室において開催している。

第90回（昭和63年5月）

「スギ花粉症について」

東北大学医学部耳鼻咽喉科教授 高坂知節

第91回（昭和63年7月）

「浄水場における調査研究について」

岩沼市水道事業所長 沼田盛

第92回（昭和63年9月）

「肺炎マイコプラズマ感染症」

仙台厚生病院院長 新津泰孝

第93回（昭和63年11月）

「原子力発電の安全性」

原子力安全対策室技術補佐 宮崎栄一郎

第94回（平成元年3月）

「大気中粉塵の人体への影響」

東北大学医学部衛生学助教授 渡辺孝男

第95回（平成元年3月）

「ふり返って」

事務局長 高橋亮
所長 滝島哲夫

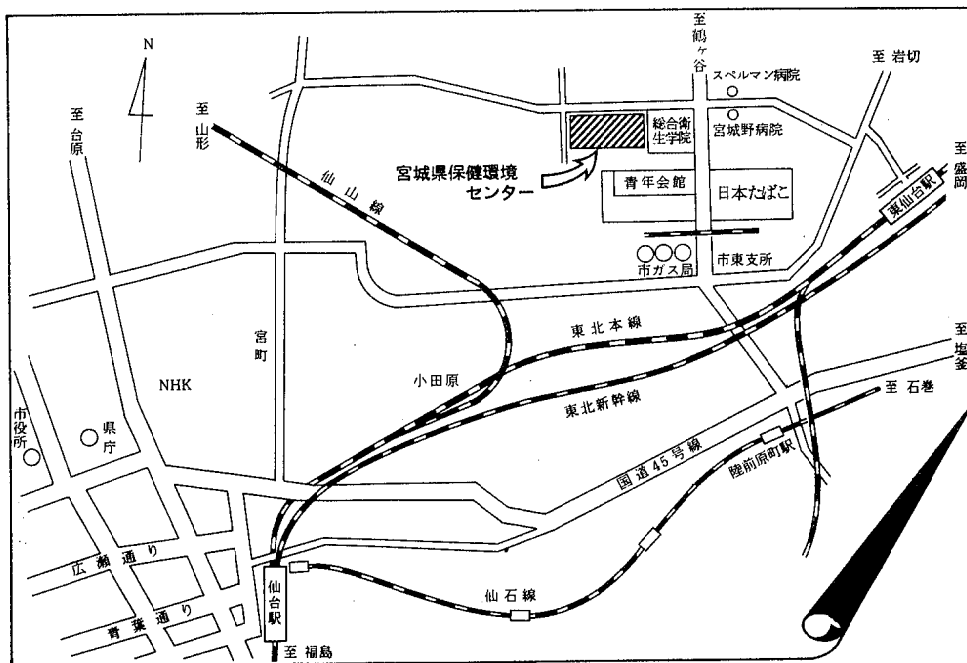
宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。
2. (原稿の執筆規定)
 - (1) 原稿はB5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。
学術用語は学会の慣例に従う。
 - (2) 原稿は表題, 著者名, 抄録, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。
資料も原則として, この順序に従って記載する。
 - (3) 著者に他機関の人を含む場合は, *印を付して脚注に記載する。
 - (4) 参考文献は, 最少限にとどめ, 本文中の引用箇所①, ②~④のように肩番号を付して示す。
(記載方法)
雑誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西暦年)
単行本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発行所(西暦年)
 - (5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に) それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本文のあとにまとめて綴る。
図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。
図はそのまま製版できるようにA4判の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インキで丁寧に書く。
 - (6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受付ける。
3. (原稿の提出) 原稿は毎年7月末日までに, 各部の編集委員に提出する。
執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。
原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

編 集 委 員

紺野光雄 (委員長)	菊地秀明
助野典義 (副委員長)	平 富貴
西田忠昭	加藤憲治
米山達彦	伏谷 均
管野信一	

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター 第7号

(昭和63年度)

印刷 平成元年12月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号

電話 022-257-7181(代)
